〔翻刻〕白百合女子大学図書館蔵『うばかわ』

佐藤信一　井田智子
黒宮麻衣　西村瑠美子
江崎優子　渡邊範子

前稿[注1]に引き続き、本学所蔵の奈良絵本の中から『うばかは』を翻刻の形で紹介する。

『うばかは』であるが、観音贍仰会旧蔵奈良絵本・守屋孝蔵蔵奈良絵本・清水泰蔵奈良絵本・実践女子大学蔵奈良絵本などの諸本が知られている。『うばかは』の諸本間には大きな異同はないとされるが、観音贍仰会旧蔵奈良絵本（室町時代物語大成）・守屋孝蔵蔵奈良絵本（室町時代物語集）では、一ウの「道すから……あんし給ひける」が、脱文となっている。その他、本文の違いが散見される。

書誌

写本。白百合女子大学附属図書館蔵。所蔵者整理書名『奈良絵本うばかわ』。整理番号913．41U11。外題は『うはかわ』。内題はなし。刊写年時（含伝承）はなし。残存は全。保存は良。一帙。蔵書印はなし。序跋はなし。編著者等は未詳。ジャンルは奈良絵本。表紙は原。紺地金つばき・かすみ模様。装訂は袋綴じ。見返しは原。巻数は一巻。料紙は鳥の子紙。数量は一冊。表紙の寸法は、縦一六・五cm×横二四・一cm。表紙以外の紙数は全二一丁、遊紙はなし。一面の行数は一三行。絵は濃彩・丹緑の色刷りが六面。書入はなし。用字、本文は平仮名による。刊記、奥書、識語、極札、箱書、広告その他なし。紙の質が異なり、強度が高く編み目がついた紙が用いられている。

凡例

字配りは原本の通りに従った。

助動詞の「む」、「なむ」等は、原本で「ん」の字母である「无」が充てられていても、「む」で翻刻した。

明らかな仮名遣いの誤りのある場合は、訂正した文字をカッコで示した。

底本の汚損等により判読不能な場合は、他本によって掲出し、その旨を注記した。

【翻刻】
うはかわ
おうゑいのころの事な
るにおはりのくにいわくら
のさとになるせのさへもん
きよむねと申人侍り
けるとしころのふるきつ
まにはおくれたまひわ
すれかたみのひめきみ
一人おはしましけるその
のちきよむねかくてある
へき事ならねは姫きみ
の十一の御としさひやひを
むかへたまひけるかきよ
むねみやこへわうはんの」
つとめにのほり給ふか北
のかたにむかひの給ふや
ういまたひめきみおさ
なけれはとにもかくにも
よきにいたはりそたてゝ
給へり候へとてこま〳〵と
かたり給ひいそきみや
こへのほり給ふ道すから
ひめきみのさうさひし
うあるらんとこかれのみ

（一オ）

あんし給ひ
ける」
《絵》
そのゝちまゝはゝこのひ
めをにくみ給ふ事かき
りなしひめきみ心に
おほしめさるゝやうはわ
かちゝのやかたにおはしま
さはかくはあらしものをと
かきくときあくれはちゝ
こひしやくるれはさき
たち給ふはゝこさまこひ
しやとなみたのかはくひま
もなしかやうになけき
たまへはいよ〳〵にくみ給
ひあさゆふのものもと」
ほしくあてかひたまひ
けるほとに十二と申
はるのころいわくらの
さとをよはにまきれ
てしのひいてゆくへき
かたはしらね共あしにま
かせてまよひ給ふほとに
しもんもくしのくはんをん
たうにつかせ給ふかこれそ

（一ウ）
（二オ）

（二ウ）

はゝうへのつね〳〵まいり
給ひし御ほとけにてま
しますそやあけくれ
あゆみをはこひ給ふも」
みつからかゆくゑをいのり
給ふとうけ給はるとて
もかひなきみつからをはゝ
のましますしやうとへ
いそきむかひとり給へ
とてふかくきせひあそ
はしとにもかくにもな
らんとおほしめしたい
じんのゑんのしたにし
のひてこもりたまふけ
にや大し大ひの御ちかひ
はけんせあんおんらせう
せんしよとまほりたま」
はむとの御せいくはんとう
けたまはるみつからは此
世のねかひさらになし
後生をたすけてたひ
たまへとはゝうへのおしゑ
おき給ふくはんおんきやうを
せつなの日々もおこたらす
よみ給ふか三夜のあかつき

（三オ）

（三ウ）

かたにこんしきのひかり
をはなちかたしけなくも
くはんせおんほさつひめき
みのまくらかみにたゝせ
給ひなんちかはゝつねに」
あゆみをはこひてひめ
か身のゆくへをいのりし
にかやうに侍給ふ事のふ
ひんさになんちかすかた
世にたくひなくうつく
しけれはいつくにてか人の
うはひとるべしこれ
をきよとてきのかわ
のやうなるものをあたへ
給ふこれはうはかわと云
ものなりこれをきてわ
かおしゆるところへゆく
へしこれよりあふみの」
くにさゝきのみんふたか
きよかもんせんにたつ
へしとおしへたまひて
かきけす
やうに
うせ
たまふ」

（四オ）

（四ウ）

（五オ）

《絵》
ひめきみはさてもあり
かたき御つけかなとふし
おかみ給ひとかくのてん
もひらくるれはくはんおん
のあたへ給ひしうはかわ
をきたまひてゑんのし
たを出たまふこれをみ
る人申けるはこれなるう
はかわはおそろしきすか
たかなとてわらひ侍り
かくておしゑのことくあふ
みのくにへのほり給ふおそ
ろしきうはかわのすかた」
なれはのにふしやまに
ふし給へともめをみか
くる人もなしやう〳〵まよ
ひ給ふほとにさゝきの
しゆくしよにつき給ふか門
のわきにやすらひて
御きやうをたつとくあそ
はし給ふたかきよの御子
にさゝきの十郎たかよし
と申て御とし十九に
ならせ給ふかねかふしもん

（五ウ）

（六オ）

のほとりにたゝすみた
まひてさふらひをちかつ」
けての給ひけるはさて
もふしきの事のありける、
そやこれなるうはかわ
御きやうをよみ候かすかた
かたちにもにはんへらす
こゑのいつくしさかれうひん
のことしかゝるふしきなる
ものはよもあらしいそき
うちへよひいれかまの火
をたかせよとおほせけ
れはさふらひうけたまはり
いかにうはきこれにこの
まゝありてかまの火を」
たけと申けるいたはしや
ひめきみほとけのおし
ゑなれはちからおよは
すうちにいり
かまの
火をこそ
たき
給ふ」
《絵》
さるほと年ころは弥生

（六ウ）

（七オ）

（七ウ）
（八オ）

の十日あまりの事なる
にみなみおもての花
そのにはいろ〳〵の花
をうへ給ふちるさくらの
あれはさきぬる花もあ
りみきわのやなきはも
ゑきのいとをたれさよ
のあけかたの山のはにか
たむく月も花のいろと
しあらそへりかくて姫
きみは夜ふけ人しつま
りて花そのにいてゝ」
月花を御らんしてこし
かたゆくすへこひしくお
ほしめしてかくなむ

月花の色はむかしに
かはらねとわか身
ひとつそおとろへ
にける

とかやうにゑいして
たゝすみ給ふさてまた
十郎とのしいかくわんけん
のみちにもくらからす
やさしかりける人なれはい
るさの月をおしみ給ひ」

（八ウ）

（九オ）

て花見の御所のみすた
かくまきあけてゑ給ふ
かあやしく花そのに人
かけのしけるは御らんして
たちおつとりたちしの
ひて見給へは火たきの
うはなりこはくせものか
ないかなる事そやとお
ほしめししつめてやうす
み給ふにこれをはひめき
みすこしもしろしめさ
すして月のひかりにさ
しむかひすこしうはかは」
をぬき給ひてうつく
しき御かほはかりさし
いたしまたかくなむ

月ひとりあはれとは
みようはかわをい
つの世にかはぬきて
かへさむ

とよみ給ふをみるにあた
りもかゝやくほとのひめ
きみなりこはいかなる事
そとおほしめしもとよ
り大かたの人なれはもち

（九ウ）

たまふたちのつはもとを」　（一〇オ）
くつろけてする〳〵と
立よりてなんちをこの
ほとの火たきのうはと
みるところにさはなくし
てうつくしきにうほうと
なる事まゑんのものに
てあるらむのかすましと
いかり給ふひめきみ御らん
してさはくけしきも
ましまさすしはらく御
しつまり給へこれはま
ゑんのものにてなしみ」　（一〇ウ）
つからかありさま
をかたり申
へしとて
ことのしさひを
ありのまゝ
にかたり
給ひ　（一一オ）
ける」　（一一ウ）
《絵》
たかよしつく〳〵きこしめ
しさてはくはんせおんの
御りしやうかなと御手を
あはせかんるいをなかし
給ふもとよりたかよし
いまた御せんもわたらせ
給はねは御ねやのかたはら
さひしくひとりおきふし
給ふかひめきみの御手を
ひき花見の御しよに
あかりうわかはをぬかせた
てまつり火をとほしみ
たまへはひとへにしやうしか」　（一二オ）
ひのてんにんのあまくたり
給ふとおほしくて又
世にたとへん人もなし
あたりもかゝやくはかりな
りたかよしおほせける
はをとにうけ給はるなる
せのさへもんきよむねの
ひめにてましますかや
あからさまなり申事にて
候へともなにかはくるし
く候へきいまよりは身
つからとふうふのちきり
をむすはせ給へとゆく」　（一二ウ）
すへの事にてもこま〳〵
とかたらひ給へはひめ

きみの給ひけるは身
つからかふせひの世に
なしものを御ことはも
かゝりなは二人の御おやさ
まの御とかめもいかゝ
あるへしいつまても御
うちにめしおかれは此
うはのすかたにてかまの
火をたきこんと侍を
けれはたかよしの給ふは
かやうにあひそめまい」
らせてはたとひちゝは
はのふきやうの身となり
しとものゝすへやまの
おくまてもかたときも
御身にはなるましと御
そはにはよりふしなけき
給へはひめきみもちか
らおよはすなひき給ふ
かくてゑんわうのふす
まのしたにてひよくの
ちきりをむすひ給ふそ
の夜もやう〳〵時わたり
たれはきぬ〳〵の凡訣」
をおしみ

（一三オ）

（一三ウ）

給ひて
たかひの
御なみた
せき
あへす
見え
給ふ」

（一四オ）

《絵》

（一四ウ）

しもつかひの物ともなき
さはくほとしけれはまた
うはきぬを打かつきた
まひてかまの火をこそ
たきにいて給ふたか
よしひめきみの御袖
をひかへてかくなむ
くわんおむのおんを
きたりしうは
かわをすへたのも
しくわれや
ぬかせむ」

（一五オ）

とよみたまへはひめき
みとりあへす御へんかに
うき事をかさねて
きたるうはかわを
きみ世になくは

たれかぬかせむ
とかやうにゑひして火
をたき給ふそあはれなり
さるほとにちゝはゝかね
てより御さためありける
はみやこいまてかわの左大
将とのゝひめきみをむか」
へ給はんとちゝはゝの御
さためにてめのとのさい
しやうを御つかひにて御
ふみあそはしみやこへ御の
ほせあるへきよしおほせ
けれはたかよしもうけ給
はりとかくの事はのたま
はてちゝはゝのおほせを
そむき申はおそれおほ
きことなれともわれは
たゝしゆけのたみにて御
あひたかやうの事はかなひ
候ましとそおほせける」
はことはりとそ聞えけり
ちゝはゝ聞しめしこはい
かなる事そやさりなから
わかき身のならひにて
心さしのふかきかたもやあ

（一五ウ）

るらんくわしくたつねよと
めのとのさいしやうに侍を
けるめのとうけたまはり
いそきたるよしにまい
り二人の御おやさまに
御こゝろをつくさせ給ふに
も御とかなりわかき身
のならひにて心こゝろ」
うつるかたのありとても
くるしからすとのゝ御身
のならひにていやしき
ものなりとも御こゝろ
さしのふかきをめし
あけてみたひにもそな
へさせ給ふへしさやう
の事世にありしならひ
なれはちゝはゝさまも
さして御うらみもしはし
とこま〳〵とかたりけれ
はたかよし聞しめして
いまは何をかつゝむへき」
みな人のおもひのほか
なる事なれともこれ
にありつる火たきのう
はをめしあけておくへ

（一六オ）

（一六ウ）

（一七オ）

しとおほせけれはさい
しやうは是をきゝなか〳〵
あきれはてゝものもい
はすなみたをなかしは
しりかへりちゝはゝにこの
よしを申けれはこはいか
なることそやしよせんた
たわか子はものにくる
はせたまふかやとて二人の」
の給ひ〳〵うちふしてなき
給ふちゝのたかきよはしは
らくありてのた(ママ)給ふやう
はわか子のたかよしほとの
物かこくうなる事よもい
はししゆつけにならんするは
かり事にやありこゝろも
となやとのたまふかいや
〳〵とかく火たきのう
はをこれよりもよめに
さためてこゝろをみよと
てさらは明日くゑ日なれ
はうはをめしあけてきた」
のかたにさため給へとて
御つかひありけれはたか
よしなのめによろこひ

（一七ウ）

（一八オ）

給ひてにわかにあたつ
のこしをとゝのへて心い
わひのきしきさま〳〵
なり御うちの人〳〵はま
こと悪からぬ事なれ共
しうめいなれはとりおこ
なひけりすてにその日
にもなりしかはたかよし
はかのうはをめしあけて
わかすみ給ふ所へ入参ら」
せ心〳〵に見せたまはすし
て二人もろ共にしやう
そくさま〳〵けしやうし
給ふてんあけゝれは御かつ
きのきぬふか〳〵と引
かつき御こしにのり給ひ
て大かたとのへそうつり
給ふ御さしきまて御こ
しをかき入ていて給
ふをみれはくたんのうは
にてはなしとはいかなる
事そやと思ひ人〳〵ちゝ
はゝあきれ御らんすれ」
すれは此よの人にては
なしてんにんかほさつの

（一八ウ）

（一九オ）

このとにあまくたりた
まふかやかほとにうつく
しき人はむかしも聞す
御としのほとは十三か十
四ほとにみへさせたまふ
ようかんひれひにてけ
たかくしんじやうにあさ
やかなるかほはせ御すかた
ゑにかくならは筆にもつ
くしかたくことはにはよ
ものへかたしたかきよふ」　（一九ウ）
うふは御らんして
おとろき給ひ
よろこひ
給ふ
かきり
なし」　（二〇オ）
《絵》　（二〇ウ）
その日の御引てものに
は御世をゆつり給ふ事
此事てんかにかくれなし
さてはくわんおんの御引
あはせにてたかよしつ
まをまふけつることの
ゆゝしさよとていそき
たかよしをめしのほせた
まひてさゝきのうひやう
のかみになし給ひあふ
みのくにゝゑちせんのあ
ひそへて給はりしよ
にしよひやうをかさねて」　（二一オ）
めてたかりけるためし
なり其後御子あまたさ
かへさせ給ひてすゑはん
ちやうし給ふこれをすな
わち大し大ひの御思ひ
なりこれを御らんし給ふ
人はなむ大ひくわんせほん
ほさつと三へん御となへ
あるへしくわんせあんおん
ごせうぜんしようたかひ
なし」　（二二ウ）

なお、この『うばかは』は、白百合女子大学図書館ホームページ上で、今回作成した翻刻、及びそれをもとに作成した釈文とともに公開されている。貴重書画像のＵＲＬは http://sclib1.shirayuri.ac.jp/rare_books/rare_books.html である。図書館のトップページに［貴重書画像］というリンクボタンがあり、そこからアクセスすることも出来る。大方の叱正を請いたい。

この翻刻を作成するにあたって、平成十六年度白百合女子大学研究奨励費の助成をうけたことを言い添えておく。

注1　「〈翻刻〉〔白百合女子大学蔵〕うらしま」『白百合女子大学研究紀要』三八号（平成十四年十二月刊）、「〈翻刻〉〔白百合女子大学蔵〕『小おとこ』」『言語・文学研究論集』三号（平成十五年三月刊）、「〈翻刻〉〔白百合女子大学蔵〕奈良絵本『七草』、『さされ石』、『いさよひ』」『国文白百合』三四号（平成十五年三月刊）、「〈翻刻〉〔白百合女子大学蔵〕『釈迦の本地』」『言語・文学研究論集』四号（平成十六年三月刊）。

（本学助教授〔佐藤〕本学大学院学生〔井田〕本学大学院学生〔黒宮〕本学大学院学生〔西村〕本学大学院修了〔江崎〕本学大学院学生〔渡邊〕）